

**役割**

部長：五條小学校 竹林先生

講師：県教育委員会 岩垣指導主事

司会：委員長 立花先生（副委員長 柳沢先生は欠席）

記録：藤田先生、木村先生

授業者：広陵東小学校 羽山先生

**今日の流れ**

- 表現遊び、リズム遊びの困り感、わからないところなどを出し合って、これから指導案を作っていく。羽山先生の学級の実態を踏まえて、グループで検討。
- 前半：グループで困り感（自分の課題、知りたいこと、聞きたいこと、考えたいこと）を共有。
- 後半：様々な困り感を分担して、話し合いをして答えを導き出す。

**今日のゴール**

「自分ならこのようなリズム運動遊びの授業をつくる」というものを各自がもつ

実際に先生たちで、二学期に行ってみて、第2回の部会を迎えたい。

**授業者の羽山先生より**

入級児童4名（知的・情緒・肢体不自由）肢体不自由の児童だけ、別メニューになってしまいがち。

## グループ協議①困り感の共有

### A

- 自由過ぎたら動けない。何か知っているステップがあるとよい。
- 評価が難しい。どこまでできたら OK? リズムにずれていたら×?

### B

- そもそもしたことがないからわからない先生も結構いる。
- ペアでやって、引き出しを広げる活動をして、いざ本番になるとうまくいかないことも。
- 表現が苦手な児童をどう引き込んでいけばよいか。
- 単発で授業をしたことはあるが、単元としての繋がりではできていない。

### C

- 体づくり運動との違い。

## 出された意見

- リズム遊びと表現遊びを一つの授業に一緒に入れてもよい。
- 新学習指導要領の評価基準を採用していきたい。
- 指導案は、学校体育必携の内容を参考にして。
- リズム→表現の構成でいくのも良いと思う。
- 世界旅行のような世界感や音楽会のイメージも面白いと思う。
- 授業時数は年間で10～12時間程度が目安（5～6時間×2）。
- 子どもたちに「どうなってほしいか」というゴールイメージを持つことが大切。

## グループ協議②単元構成例

### C

- 導入は、ゲーム感覚でできるもの。ダルマさんの1日のように即興的に動くもの。
- 良い動きを褒めて、共有していくのが良い。
- 表現遊びを中心に考えていくのも良いのでは。テーマ候補：お手伝いのこと、動物、植物。
- 楽器だとみんな同じになってしまいそう。音を表現してみてもどうか。
- グループで動きを考えて発表という形。
- 肢体不自由の児童もできる動きを考えるのであれば、やはりグループで考えるのがいい。

### B

- 表現遊びとリズム遊びの違い。子どもたちの「楽しかった」だけではなく、教師側の理解必要。
- グループの一体感やつながりを大切にしたい。グループで学びを深めれば、独りぼっちにならずに、できた感をどの児童も持てるのでは。
- みんなが何をもって楽しいと思えたのか、が重要。
- 一番怖いのが、「よくわからへん、いやや」という児童がでること。
- 最初はまねっこから入って、ちょっとずつ見せ合いっこして共有する感じがいいのでは。

### A

- 音楽会になると、ジェスチャーっぽくなってしまいそう。
- フォークダンスを練習して、手拍子、回る、などに慣れる。
- 別のリズムで、それを増やしていく。
- タタロチカの動きを他のリズムでやってみたりして、即興に繋げていけたら。

## 授業者の意見

- リズム遊びだけでなく、表現も入れていけたらと思った。
- 今までされた、単元計画をいろいろ知りたい。

## 出された意見

- リズム遊びを行うのか、表現遊びを行うのか。その違いとゴールを明確にしていく必要がある。
- リズム遊びと表現遊びを時間数で分けて行うパターンと各授業の中で両方入れるのか。
- 一緒に踊って、見合いっこして、いろんな動きを味わっていく。
- リズムダンスの理想をイメージしながら、子どもたちの動きを褒めていくことが大切。
- へそ、体を横に振っている、など褒めるポイントをダンス的な動きにつなげていく。
- 曲を選んでおいて、子どもたちに選ばせたり、見合いっこしたりして踊らせていく。
- リズムだけで5時間を設定したことがあるが、同じ曲を各グループでやってみるのか、それぞれ違う曲で即興ダンスをするのか。検討の余地あり。

## グループ協議③各困り感の解決方法

### B

- 苦手な子どもとにかく褒めまくる。褒める引き出しも必要。
- 評価について、観察、カード、日記、などいろいろな方法がある。

### A

- まずは先生と一緒にやってみるということが不可欠。真似っこゲーム（ぴよぴよさん）。
- メトロノームの音だけで、いろいろな動きをやっていくのもあり。
- フォークダンスなら、簡単な動きでみんなできるような内容にできるのでは。
- どんな、どこ、どれくらい、「ど」の付くことばで表現を広げる。

### C

- ぴよぴよさんみたいに、歌いながら、遊びながら、動きをやっていくと良いのでは。
- あんたがたどこさのように、歌で体を動かしていく。
- 新聞紙になりきるような、具体物を提示して表現のレパートリーを増やせる。
- リズムダンス、毎時間同じ曲をやっていって、発表になったときに、即興じゃなくなってしまうのでは。

## 授業者

- いろんな良い案を聞けて、良かった。今回は、リズムを中心にやっていきたいと思う。
- 次回は、指導案を作った形で部会をやりたい。授業の時期は、二学期中、12月あたりか。次回の日程は、後日連絡。

## 岩垣先生指導助言

- 新学習指導要領の内容を踏まえた実践を行い、県内に発信していけたら。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善といわれているが、各教科で行われている学習活動の質を高めていくことが大切である。
- 授業者と目の前の子どもたちで授業をつくっていくので、「子どもたちにこうなって欲しい」というゴールイメージをしっかりと持つことが大事。
- 新学習指導要領で整理された育成を目指す資質・能力を、今回の表現リズム遊びの実践で具体的にどう身に付けさせるのか、よく考えておかないといけない。
- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編を読んで、表現リズム遊びで押さえるポイントを確認していただきたい。
- 単元構成や時間の割り振りは、子どもの実態を踏まえて考えていく必要がある。
- 表現で何を主題にするのか、リズムであればどんな曲を使っていくのか。また、今までどのような曲を使ったのかなどを部会で出し合えたら。
- 動きをつくるときに、掲示物や教師の言葉がけなどの手立ても検討していく。